経済工学科・経済工学専攻カリキュラム・マップ

凡例

科目区分	基幹教育必修	学科必修	学科選択	学科選択必修	卒業研究	国際コース選択必修	修士課程 共通科目	修士課程 専門科目	博士課程 共通科目	研究指導
（再掲は薄色表示）	基幹教育必修	学科必修	学科選択	学科選択必修	卒業研究	国際コース選択必修	修士課程 共通科目	修士課程 専門科目	博士課程 共通科目	研究指導

区分	学士課程	修士課程	博士課程	B1 1Q	B1 2Q	B1 3Q	B1 4Q	B2 1Q	B2 2Q	B2 3Q	B2 4Q	B3 1Q	B3 2Q	B3 3Q	B3 4Q	B4 1Q	B4 2Q	B4 3Q	B4 4Q	M1 1Q	M1 2Q	M1 3Q	M1 4Q	M2 1Q	M2 2Q	M2 3Q	M2 4Q	D1 通年	D2 通年	D3 通年
実践的場面での知識・理解の活用	D-1. 世界的な視野と自立的な学習及び実践力、高い専門性を持って経済の動向を的確に把握し、創造的に問題解決に取り組もうとすることができる。	D-3. 各専門領域での研究を通して、世界的な視野と自立的な学習態度を持ち、課題解決に向けて実践することができる。	D-4. 各専門領域での研究を通して、世界的な視野と自立的な学習態度を持ち、課題解決に向けて実践することができる。									経済工学演習								リサーチ・ワークショップ								リサーチ・ワークショップ		
	D-2. 理系と文系といった既成の枠にとらわれない幅広い分野において、国際的に活躍するとともに、自身が属するさまざまなコミュニティの発展に貢献しようとすることができる。																			修士論文指導								博士論文指導		
新しい知見の創出		C-2-2. 課題解決にあたり多様なアプローチの可能性を探ることができる。	C-2-4. 課題解決にあたり、置えた知識、他者との交流から、多様なアプローチの可能性を探ることができる。																											
	C-2-1. 複雑化し多様化する現代の経済社会に対する現実感覚に基づいて、解決すべき政策的課題を発見し、政策分析に向けた新たな構想を提案することができる。	C-2-3. 現代の経済社会に対する現実感覚に基づいて、解決すべき政策的課題を発見し、政策分析に向けて新たに構想することができる。	C-2-5. 多様な政策課題を分析・評価し、新たな政策提言を行うことによって、望ましい経済社会のあり方を検討することができる。																											
知識・理解の応用	C-1-1. 情報技術の活用や工学的な手法の導入といった幅広いアプローチを活用して、経済諸問題を把握・分析することができる。	C-1-7. 高度な理論的・計量的分析の手法を使用して、多様な経済諸問題を科学的に解明することができる。	C-1-13. 多様な経済諸問題を科学的に解明するために、高度な理論的・計量的分析の手法を駆使して、自立した研究者としての活動を行うことができる。									【選択必修科目】								【大学院専門科目】								【大学院専門科目】		
	C-1-2. 経済・経営問題に関する数理・情報解析の手法を活用することができる。	C-1-8. 経済・経営問題に関するより高度な数理・情報解析の手法を活用することができる。	C-1-14. 経済・経営問題に関するより高度な数理・情報解析の手法を開発・活用することができる。																											
	C-1-3. 現実の経済システム、経済動向を把握・評価し、多方面からの政策分析を行うことができる。	C-1-9. 数理的思考、数量、情報科学の方法を活用して分析を進め、分析の諸結果を評価し、政策に応用・展開することができる。																											
	C-1-4. 数量的な方法を用いて現実の経済の動きを照合することができる。	C-1-10. 数理・数量的手法を用いて、マクロ経済・ミクロ経済レベルでの諸問題を理論と実証の両面から分析することができる。	C-1-15. 先端的な数理・数量的手法を用いて、マクロ経済・ミクロ経済レベルでの諸問題を理論と実証の両面から分析することができる。																											
	C-1-5. 大量の情報を管理し処理するための数学的な基礎知識に基づき、コンピュータを実践的に活用することができる。	C-1-11. 経済分析のための数学的手法、経済・経営データの解析手法、数理ファイナンスなどのための確率・統計理論とその応用、情報処理・管理のためのコンピュータ技術などの知識を幅広く活用することができる。																											
	C-1-6. 政策的課題の解決に向けた創造的な思考法を基礎にして、現実経済への働きかけとしての政策が持つ意味を多方面的に検討することができる。	C-1-12. 多様な経済問題に関する政策を分析し評価するための知識と手法を学び、新たな政策を提言できる。	C-1-16. 多様な経済問題に関する政策を分析し評価するための知識と手法を幅広く活用し、新たな政策提言を行うことができる。																											
知識・理解		B-3. 経済社会に対する現実感覚に基づいて政策課題を認識し、課題の研究を分析ツールにフィードバックしつつ新たに構想しようとすることができる。	B-6. 経済学を含めた社会科学の方法と論理的・批判的思考力に基づき考えることができる。					【基本科目】				【自由選択科目】								【大学院基本科目】								【大学院基本科目】		
		B-4. 理論と実証、政策、数理・情報の各専門分野の内容の高度な理解と、社会科学における経済学固有の思考を理解することができる。	B-7. 理論と実証、政策、数理・情報の各専門分野に関する専門的な知識を統合的に把握し、表現することができる。																											
	B-1. 数理・数量的手法を用いて、複雑で多様な経済諸問題を科学的に理解し説明することができる。																											
	B-2. 経済・経営分析のための数理・数量的手法の基礎と統計的・数学的基礎に関する知識、生きた経済に対する豊かな現実感覚と国際的視野に基づき考えることができる。	B-5. 経済・経営問題に関するより高度な数理・情報解析の手法を活用する能力を修得することができる。	B-8. 経済・経営問題に関する高度かつ最新の数理・情報解析の手法を活用する能力を修得することができる。					経済工学基礎セミナー/外国書講読																						
主体的な学び・協働			A-7. 国際的な学会レベルで、英語による発表、質疑によって、自分の考えを表現することができる。																	特研/リサーチワークショップ								特研/リサーチワークショップ		
		A-3. 研究会やワークショップレベルで、正しく自分の考えを表現することができる。	A-8. 国内外の学会・研究会レベルで、正しく自分の考えを表現することができる。			学術英語B・インテグレイト				学術英語C・テーマベース 学術英語C・スキルベース	学術英語C・テーマベース 学術英語C・スキルベース☒																			
		A-4. 自己表現能力と、討論力や語学などのコミュニケーション能力を鍛え、他分野との積極的な交流の視点を持つことができる。	A-9. 自己表現能力と、討論力や語学などのコミュニケーション能力を鍛え、他分野と積極的に交流しようとすることができる。	言語文化基礎科目（第二外国語）		言語文化基礎科目（第二外国語）																							
	A-2.（協働）多様な知の交流を行い、他者と協働し問題解決にあたることができる。		A-10. 各専門領域での専門性を深める学問的経験（ティーチング・アシスタントやリサーチ・アシスタントなどへの従事）を通して、集団・組織を運営し、後進の研究者を育成しようとすることができる。	健康・スポーツ科学演習		課題協学科目						経済工学演習																		
	A-1.（主体的な学び）深い専門的知識と豊かな教養を背景とし、アクティブ・ラーナーとして自ら問題を見出し、創造的・批判的に吟味・検討し、実践に取り組むことができる。	A-5. 各専門領域の基礎知識を身につけ、それをさらに発展させて専門性を深めようとすることができる。	A-11. 各専門領域での最新の知識と手法を身につけ、それをさらに発展させて積極的により高度な専門性につなごうとすることができる。		経済工学プレセミナー			経済工学基礎セミナー																						
				文系ディシプリン科目		文系ディシプリン科目																							
				理系ディシプリン科目		理系ディシプリン科目																							
				サイバーセキュリティ基礎論																									
		A-6. 経済現象に関する関心と探求心を持ち、研究に主体的に取り組もうとすることができる。	A-12. 経済現象に関する関心と探求心、研究に主体的に取り組む意欲を持つとともに、望ましい経済社会の構築に向けて自ら寄与すべく取り組もうとすることができる。	基幹教育セミナー																									
区分	学士課程	修士課程	博士課程	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	通年	通年	通年
学修目標				B1				B2				B3				B4				M1				M2				D1	D2	D3
教育課程の時期区分				基礎・発展								発展・統合								展開										
アセスメント・プラン				学修成果の達成度を学生の授業アンケートと成績評価に基づいて総合的に精査する（基本科目）								学修成果の達成度を学生の授業アンケートと成績評価に基づいて総合的に精査する（選択必修科目）								学修目標達成度を修士論文発表会の中で評価する								学修目標達成度を研究発表会の中で評価する		